



## 2020年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2020年8月11日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社カイオム・バイオサイエンス

コード番号 4583 URL <http://www.chiome.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小林 茂

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画室長 (氏名) 美女平 在彦 TEL 03-6383-3746

四半期報告書提出予定日 2020年8月11日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・証券アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2020年12月期第2四半期の業績（2020年1月1日～2020年6月30日）

#### （1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第2四半期	173	23.1	△735	ー	△735	ー	△736	ー
2019年12月期第2四半期	140	51.8	△749	ー	△758	ー	△757	ー

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第2四半期	△22.01	ー
2019年12月期第2四半期	△25.49	ー

（注）潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載していません。

#### （2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第2四半期	3,054	2,585	83.6
2019年12月期	2,808	2,621	92.6

（参考）自己資本 2020年12月期第2四半期 2,555百万円 2019年12月期 2,599百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	ー	0.00	ー	0.00	0.00
2020年12月期	ー	0.00	ー	0.00	0.00
2020年12月期（予想）	ー	ー	ー	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2020年12月期の業績予想（2020年1月1日～平成2020年12月31日）

当社は「創薬事業」「創薬支援事業」の2つを報告セグメントとしております。創薬事業においては、現時点で合理的な業績予想の算定が困難であるため、当社の業績予想は創薬支援事業の数値（売上高480百万円）のみ公表しております。それに伴い、全社の業績予想についても記載していません。なお、直近に公表されている業績予想からの修正はありません。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年12月期 2 Q	35,281,800株	2019年12月期	33,283,500株
② 期末自己株式数	2020年12月期 2 Q	146株	2019年12月期	146株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年12月期 2 Q	33,436,774株	2019年12月期 2 Q	29,699,358株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により異なる可能性があります。  
業績予想の前提条件及びその他関連する事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（4）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
2. 当社は、2020年8月12日に機関投資家・証券アナリスト向けの決算説明会をオンラインにて開催する予定です。この説明会で配布する決算説明会資料については、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) キャッシュ・フローの状況に関する説明	3
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(重要な後発事象)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当第2四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間においては、全世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大にともない経済活動が大きく制限されるなど、国内外の経済環境が急激に悪化し、先行き不透明な状況が継続しております。このような外部環境の中、当社の当第2四半期累計期間における売上高につきましては、主として創薬支援事業における研究受託取引の拡大により、173,278千円(前年同四半期比32,595千円増加)となりました。営業損失につきましては、自社で開発中のCBA-1205の臨床試験開始に向けたGLP下での毒性試験および治験薬製造費用等のCMC開発費等を中心に研究開発費を計上したことにより、735,779千円(前年同四半期は749,708千円の営業損失)となりました。また、経常損失は735,874千円(前年同四半期は758,731千円の経常損失)、四半期純損失は736,036千円(前年同四半期は757,110千円の四半期純損失)となりました。当第2四半期累計期間における当社の事業活動の概況は次のとおりです。

当社は、医療のアンメットニーズの高い領域における抗体医薬品を創出する創薬事業と、製薬企業等に抗体創薬にかかわる技術サービスを提供する創薬支援事業を展開しております。

創薬事業においては、ファースト・イン・クラス抗体で自社開発中のCBA-1205の治験実施に必要なGLP下での毒性試験等の前臨床開発を終了し、2020年3月24日に日本国内で治験届を提出いたしました。また、2020年7月に国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院および東病院の2施設と臨床第I相試験実施に関する契約を締結し、8月より患者さんへの投与が開始されております。多重特異性抗体であるCBA-1535は治験薬製造に向けて予定通りにCMC開発を進めております。探索段階にある創薬プロジェクトでは、リード抗体の創出、および知財化に向けた研究開発を継続して取り組んでおります。また、新たな創薬プロジェクト発足にむけた創薬企業やアカデミアとの共同研究に加え、Tribody技術を生かしたテーマを始動させるなど、今後の開発パイプラインの質・量の拡充に向けた取り組みを進めております。

## ・開発パイプライン

2017年9月にスイスのADC Therapeutics社にADC用途に限定して導出したADCT-701については、ADCT社でIND申請に向けた準備が進められております。

CBA-1205については、2020年8月3日付のお知らせの通り、第I相試験において第1例目の投与が開始されております。本試験の前半では固形がん患者さんを対象に安全性、忍容性および体内動態を確認することに加え、後半パートでは肝細胞がんの患者さんを対象に探索的な有効性も調べることを目的としております。

CBA-1535については、治験薬製造を委託しているCMOにおいて、現在、治験薬製造の準備を進めており、2021年後半以降の英国での臨床試験許認可(CTA)申請を目標として取り組んでおります。

LIV-2008については、複数の海外製薬企業において導入評価試験等が実施されております。

BMAAについては、2018年3月にカナダのSemaThera社と共同開発ライセンス及び独占的オプション契約を締結しておりますが、評価3年目に入ったことにより、当該オプション期間に対応するオプション料については当第2四半期累計期間に対応する金額を売上高に計上しております。

## ・創薬プロジェクト

その他、探索段階にある6つの創薬プロジェクトが進行していますが、さらなるパイプライン拡充に向けた研究開発にも取り組んでおります。創薬プロジェクトのうち、がんの標的分子(非開示)をターゲットとするプロジェクトにおいては前期末に新規特許出願を完了しており、現在は外部企業との連携によるADC領域でのフィージビリティ・スタディーを実施しております。

以上の結果、創薬事業における当第2四半期累計期間の業績は、売上高1,631千円(前年同四半期比350千円増加)、研究開発費608,705千円(前年同四半期比27,533千円減少)、セグメント損失は607,377千円(前年同四半期は634,982千円のセグメント損失)となりました。

創薬支援事業は、当社の安定的な収益確保に資する事業であり、当社の独自の抗体作製手法であるADLib®システムやB cell cloning法等の抗体技術プラットフォームを活かした抗体作製業務のほか、タンパク質調製業務、ADLib®システムを用いた抗体の親和性向上業務を受託し、製薬企業等の研究支援を展開しております。

当第2四半期累計期間においては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大にともなう緊急事態宣言の発出等により、当社や一部顧客において一時的な稼働低減等があったものの、影響は限定的なものとなりました。既存顧客との安定的な取引に加え、ヒトADLib®システムを活用した新規抗体作製に伴う売上を計上しております。また、新型コロナウイルスに対する抗体作製受託案件には継続して対応しており、当第2四半期累計期間における完了案件に対する売上高を計上しております。

なお、本事業の取引については当社のサービスが一定の評価を得て現在拡大基調にあるため、当第2四半期累計期間においては、当社業務キャパシティ向上のための技術研究所の改修及び機器の増設を実施しており、今後も継続的に取引規模の拡大を目指してまいります。

創薬支援事業における当第2四半期累計期間の業績は、国内製薬企業を中心として取引が拡大した結果、売上高は171,647千円（前年同四半期比32,244千円増加）となりました。利益面では、今後の創薬支援事業の拡大を見越した設備機器の先行投資費用の計上により、セグメント利益は64,922千円（前年同四半期比21,896千円減少）、セグメント利益率は37.8%（目標50%）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第2四半期会計期間末における総資産は、現金及び預金の増加などにより、前事業年度末に比べ246,137千円増加の3,054,227千円となりました。

（負債）

当第2四半期会計期間末における負債の残高は468,765千円となり、前事業年度末と比較して282,184千円増加いたしました。これは主に、創薬支援事業の設備投資等に関連した短期借入金の増加などによるものです。

（純資産）

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は2,585,462千円となり、前事業年度末と比較して36,046千円減少いたしました。これは主に、新株予約権の行使により資本金及び資本準備金が増加したものの、四半期純損失の計上により利益剰余金が減少したことによるものであります。

（3）キャッシュ・フローの状況に関する説明

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」）の残高は2,472,406千円となり、前事業年度末と比較して366,430千円増加いたしました。各キャッシュ・フローの状況とその主な要因は以下のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において営業活動により使用した資金は528,265千円となりました。主な内訳は、税引前四半期純損失の計上です。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において投資活動による資金の増減はありません。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において財務活動により獲得した資金は894,696千円となりました。主な内訳は、新株予約権の行使による株式の発行による収入です。

（4）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年2月14日に発表いたしました2020年12月期の業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (2019年12月31日)	当第2四半期会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,105,976	2,472,406
売掛金	95,138	22,035
たな卸資産	66,626	76,512
前渡金	217,658	142,464
未収消費税等	35,693	42,096
その他	39,934	49,360
流動資産合計	2,561,028	2,804,875
固定資産		
有形固定資産		
機械及び装置	316,629	293,771
減価償却累計額	△308,343	△286,890
機械及び装置(純額)	8,285	6,880
工具、器具及び備品	103,416	100,746
減価償却累計額	△100,595	△98,633
工具、器具及び備品(純額)	2,820	2,112
有形固定資産合計	11,106	8,993
投資その他の資産		
投資有価証券	150,000	150,000
長期前払費用	12,048	16,451
敷金及び保証金	73,908	73,908
投資その他の資産合計	235,956	240,359
固定資産合計	247,062	249,352
資産合計	2,808,090	3,054,227

(単位:千円)

	前事業年度 (2019年12月31日)	当第2四半期会計期間 (2020年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	29,936	34,958
短期借入金	—	199,000
未払金	33,438	133,276
未払費用	17,663	14,549
未払法人税等	38,106	9,921
前受金	15,956	26,312
預り金	5,239	4,735
前受収益	554	—
賞与引当金	4,237	4,389
流動負債合計	145,133	427,141
固定負債		
資産除去債務	41,447	41,624
固定負債合計	41,447	41,624
負債合計	186,581	468,765
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,132,216	846,189
資本剰余金	6,122,216	2,445,969
利益剰余金	△9,654,653	△736,036
自己株式	△292	△292
株主資本合計	2,599,488	2,555,830
新株予約権	22,020	29,631
純資産合計	2,621,508	2,585,462
負債純資産合計	2,808,090	3,054,227

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
売上高	140,683	173,278
売上原価	52,608	107,027
売上総利益	88,075	66,251
販売費及び一般管理費		
研究開発費	636,238	608,705
その他	201,545	193,325
販売費及び一般管理費合計	837,784	802,030
営業損失(△)	△749,708	△735,779
営業外収益		
受取利息	13	22
為替差益	510	362
補助金収入	—	1,587
その他	186	193
営業外収益合計	709	2,165
営業外費用		
支払利息	—	272
株式交付費	4,007	—
新株予約権発行費	5,724	1,742
その他	—	245
営業外費用合計	9,732	2,260
経常損失(△)	△758,731	△735,874
特別利益		
新株予約権戻入益	2,830	1,048
特別利益合計	2,830	1,048
税引前四半期純損失(△)	△755,900	△734,826
法人税、住民税及び事業税	1,210	1,210
法人税等合計	1,210	1,210
四半期純損失(△)	△757,110	△736,036

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純損失(△)	△755,900	△734,826
減価償却費	2,421	1,867
売上債権の増減額(△は増加)	20,417	73,103
たな卸資産の増減額(△は増加)	△12,826	△9,886
前渡金の増減額(△は増加)	△15,021	75,193
未収消費税等の増減額(△は増加)	13,279	△6,402
仕入債務の増減額(△は減少)	137	5,021
未払金の増減額(△は減少)	77,453	99,837
未払費用の増減額(△は減少)	△2,065	△3,114
前受金の増減額(△は減少)	12,832	10,355
その他	△15,928	△38,333
小計	△675,199	△527,183
利息の受取額	11	18
利息の支払額	—	△272
補助金の受取額	—	1,587
法人税等の支払額	△2,420	△2,420
法人税等の還付額	6	4
営業活動によるキャッシュ・フロー	△677,601	△528,265
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
投資活動によるキャッシュ・フロー	—	—
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	—	199,000
株式の発行による収入	1,249,640	697,438
新株予約権の発行による支出	△1,167	△1,742
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,248,472	894,696
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	570,871	366,430
現金及び現金同等物の期首残高	2,328,513	2,105,976
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,899,385	2,472,406

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

2020年3月27日開催の定時株主総会の決議に基づき、2020年5月1日付で減資の効力が発生し、資本金が5,632,216千円及び資本準備金が4,022,436千円それぞれ減少し、利益剰余金が9,654,653千円増加しております。また、新株予約権の権利行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ345,441千円増加し、当第2四半期会計期間末において資本金が846,189千円、資本剰余金が2,445,969千円になっております。

(重要な後発事象)

(新株予約権の行使による増資)

当第2四半期会計期間終了後、2020年7月31日までの間に、行使価額修正条項付第17回新株予約権の一部について権利行使が行われております。当該新株予約権の権利行使の概要は、次のとおりであります。

- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| (1) 発行した株式の種類及び株式数 | 普通株式 1,361,900株 |
| (2) 増加した資本金        | 184,821千円       |
| (3) 増加した資本準備金      | 184,821千円       |

これにより、2020年7月31日現在の普通株式の発行済株式総数は36,643,700株、資本金は1,031,010千円、資本剰余金は2,630,791千円となっております。